

「温品 歴史再発見～ふるさと散策」案内板

温品では、温品の歴史を再発見・継承について、温品・上温品の有志で構成する「ふるさと散策クラブ」のメンバーと社会福祉協議会が協力して、令和3年3月、「案内板」を5か所に設置しました。

温品には、自然や文化、産業などの長い歴史があり、今につながっています。

ぜひ案内板を巡って、温品の歴史や魅力に、思いを馳せてみてください。

名称	説明	場所 (地図裏面)
高尾山・岩谷寺	<small>たかおさん いわやし</small> 高尾山・岩谷寺は、温品の東にそびえる高尾山の山頂に、古くから「岩谷観音堂」としてまつられており、昭和44年(1969年)に、ふもとのこの地に移されました。	温品4丁目 岩谷寺内
永町山城跡	永町山城は、室町時代の武将 <small>ぬくしな</small> 温科氏の居城であったと言われています。 温科の地名は、その後「 <small>ぬくしな</small> 温品」と改称されて現在に至っています。	温品町森垣内・豊谷 永町山北側
水車による産業振興	温品川（府中大川）の急流は、水害で人々を苦しめましたが、大正の初期までは、水流を利用した水車がたくさんあり、川の恵みを受けていました。	温品7丁目 森垣内橋の右岸
川手牧場跡	大正15年(1926年)の温品川（府中大川）の大水害によって荒れた農地を肥やすため、この地に川手牧場 <small>かわてぼくじょう</small> がつけられました。 太平洋戦争末期の昭和20年(1945年)8月に、牛舎の一部に中国新聞社の輪転機が疎開のため移転されました。原爆被災後まもなくの9月3日には、ここで印刷された新聞が発行されました。	温品8丁目 森垣内橋の左岸近 く
献穀田	<small>けんこくてん</small> 献穀田というのは、天皇陛下に献上するお米を作る田んぼのこと で、全国から選ばれるのですが、温品ではこの付近の田んぼが選ばれていました。	温品町森垣内 「はぐくみの里」 駐車場入口